

2025年11月



デフリンピックが やってくる!



ベコ太郎

きこえない・きこえにくい人たちにとって最高峰のスポーツ大会「東京2025デフリンピック」が来年、日本で開催されます。今回、「デフリンピック」という言葉を初めて知った方もいるかもしれません。

そんな方のために、「デフリンピック」のキホンのキから、福島県で実施されるサッカー競技まで、ギュッと詰め込んで特集します。来年はみんなで一緒にデフリンピックを応援しましょう!

デフリンピックってなに?

デフリンピックとは英語で「耳がきこえない」という意味の「デフ (Deaf)」と「オリンピック」を合わせた名前です。オリンピックと同様に4年に1度開催されています。

■パラリンピックより歴史の長いデフリンピック

障がい者のスポーツ競技大会として知られるパラリンピックは、戦争で身体に障がいを負った兵士のリハビリテーションを目的として始まったことから、聴覚障がい者の競技種目は含まれていません。

デフリンピックの歴史は1948年に始まったパラリンピックよりも古く1924年に始まりました。日本で初めて開催される「東京2025デフリンピック」は開催100周年の記念大会となります。

■東京2025デフリンピック大会エンブレム

人々のつながりを意味する「輪」をテーマに、デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表しています。デフリンピックを通して、「輪」が繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを表現しています。



第23回夏季デフリンピックサムスン2017
2017年7月18日~30日 トルコ・サムスン市で開催
写真: (一財) 全日本ろうあ連盟

「耳」がきこえなくても

デフリンピックは競技中、補聴器や人工内耳を外さなければなりません。スタートや試合中の合図は、「耳」がきこえなくても参加者が不利にならないよう、音ではなく「目」でわかるさまざまな工夫がされています。目で補うことを「視覚的保障」と言い、ランプやフラッグが使用されるシステムが導入されています。



陸上競技のスタートランプと音響装置

東京2025デフリンピックの競技種目

夏季大会となる東京大会では次の21競技が実施されます。東京都をメイン会場とし、自転車競技は静岡県、サッカー競技は福島県が会場に選ばれました。

- | | | |
|------------|------------|-----------------|
| ●陸上 | ★サッカー | ●水泳 |
| ●バドミントン | ●ゴルフ | ●卓球 |
| ●バスケットボール | ●ハンドボール | ●テコンドー |
| ●ビーチバレーボール | ●柔道 | ●テニス |
| ●ボウリング | ●空手 | ●バレーボール |
| ●自転車(ロード) | ●オリエンテーリング | ●レスリング(フリースタイル) |
| ●自転車(MTB) | ●射撃 | ●レスリング(グレコローマン) |



東京 2025 デフリンピック

Jヴィレッジでサッカー競技開催!

デフサッカーについて知ろう

◆基本ルールは同じ

■ 人数：1 チーム11 人 ■ 試合時間：45分ハーフ ■ ピッチサイズ：フルコート

■ 特徴

デフサッカーの基本ルールは聴者のサッカーと同じです。異なる点は、主審が笛とフラッグの両方を使用することです。(笛の音がきこえないため)

◆素早いコミュニケーションに注目!

聴者のサッカーと変わらない速さでパスやシュートが繰り広げられるデフサッカー。どのように意思疎通を図っているのでしょうか?

試合前は、スムーズなコミュニケーションがとれるよう、意思統一を図るために攻守のプランを練って試合に臨みます。試合が始まってからは敵・味方の動きに加え、審判やベンチの様子など多くの情報を視覚で捉えて状況を把握し、ハンドサインやアイコンタクトを駆使してコミュニケーションをとります。選手たちの素早いやりとりに注目です!



主審もフラッグを使用
写真：(一財)全日本ろうあ連盟



日本代表の主な戦績

	開催年	大会名	成績
男子	2018	第4回アジア太平洋ろう者サッカー選手権大会 韓国	2位(9か国中)
	2023	第4回ろう者サッカー世界選手権大会デフサッカーワールドカップ2023 マレーシア	2位(19か国中)

	開催年	大会名	成績
女子	2018	第4回アジア太平洋ろう者サッカー選手権大会 韓国	1位(3か国中)
	2022	第24回夏季デフリンピック2021 ブラジル	4位(5か国中)
	2023	第4回ろう者サッカー世界選手権大会デフサッカーワールドカップ2023 マレーシア	5位(5か国中)



福島県ゆかりの
デフアスリート
インタビュー

誰もがそれぞれ輝ける場所がある

デフアスリートの
インタビュー全編はWeb
サイトをご覧ください。



来年2025年11月、国内初開催となる「東京2025デフリンピック」出場を目指しているデフアスリートと、今年3月にトルコで開催された冬季デフリンピックに出場したデフアスリートの皆さんにお話を伺いました。



デフサッカー

にしど このか
西戸 湖乃華さん

(一社) 福島県聴覚障害者協会会員

Q デフリンピックを目指すことになったきっかけを教えてください。

A 小さい頃から体を動かすことが好きで、テレビでオリンピック選手の姿を見て、自分も出てみたいという気持ちがありました。

小学校5年生の時に、デフリンピックがあることを知り、デフリンピックで日本代表になりたいという気持ちが高まりました。

Q 来年の夏季大会は、初回の大会から100周年を迎えるとともに、国内で初開催となる記念すべき大会となります。さらに、サッカー競技が福島県で開催されることになりましたが、このことについて思いを聞かせてください。

A 地元開催を知り、うれしさもありますが、プレッシャーがすごいです。自分が代表に選ばれたら、皆さんにサッカーの楽しさを伝えて、きこえなくてもスポーツができることを知ってもらいたいです。



左が西戸さん



デフバスケットボール

えちぜん ゆうき
越前 由喜さん

(一社) 福島県聴覚障害者協会会員

Q あなたにとって、デフリンピックとはなんですか。

A デフリンピックは、私にとって「夢の舞台」です。オリンピックを目指すアスリートと同じく、デフアスリートを目指す最高の場所です。

デフリンピックに参加できるだけでも光栄だと思っています。日本代表になって、結果を残したい、メダルを取りたいと思っています。

Q デフリンピックへの意気込みや目標などをお聞かせください。

A まずは、デフリンピックの日本代表に選ばれ、参加することが目標です。

日本代表に選ばれた際には、きこえない子どもたちに自分が活躍する姿を生で見たいと思います。

私も先輩から夢をいただいたので、次は私が子どもたちに夢を与えられたらと思います。



中央が越前さん



デフカーリング

やまくち しょうだい
山口 翔大さん

(一社) 福島県聴覚障害者協会会員

Q 今年3月にトルコで開催された冬季デフリンピックに出場した感想をお聞かせください。

A 終わってみれば「楽しかった。いい思い出になった」と思いますが、全力を尽くしたけれどメダルには届かなかったので悔しい部分もあります。

国際大会に出場できたことは本当に良い経験で、世界のレベルを知ることができました。自分のレベルも分かったので、次のデフリンピック出場に向け、今度こそ金メダルを目指して頑張ります。

Q 応援してくれている皆さんへメッセージをお願いします。

A デフリンピックで頑張れたのは、日本で応援してくれている方がいたからです。まずは、皆さんに感謝の気持ちをお伝えしたいです。ありがとうございました。

今後は、応援してくれている方々に、夢や感動を与えるプレーができればと思っています。これからも、応援よろしくをお願いします。



中央が山口さん



読者からの
お便り

娘が結婚したので、特集されていた妊娠や出産、子育ての制度が知れて良かったです。(70代 矢祭町)



みんなでデフリンピックを盛り上げよう



11/17
(日)

1年前カウントダウンフェスタ「デフスポふくしま」を開催！

11月17日(日)、Jヴィレッジで東京2025デフリンピック1年前カウントダウンフェスタ「デフスポふくしま」を開催します。

体験イベントでは、元サッカー女子日本代表の岩淵真奈



元サッカー女子日本代表
岩淵 真奈さん



手話通訳士
保科 隼希さん

さんをゲストにお招きし、サッカー教室を開催するほか、デフサッカー体験や手話体験など、参加者が直接体験できるプログラムを多数準備しています。

ステージイベントでは、テレビドラマ「silent」の手話指導を支えた福島市出身の手話通訳士である 保科隼希さんにご講演いただきます。

また、パネルディスカッションでは、内堀知事、岩淵さん、保科さん、そしてデフフットサル選手の岩淵亜依さんが、デフリンピックに対する思い、デフスポーツの楽しさや魅力などについて語ります。

さらに、福島県産の食材を使用したおいしい料理が並ぶキッチンカーも登場します。

多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

※内容が変更になる場合があります。

詳しくは
Webサイトを
ご覧ください



11/10
(日)

いわきFCホームゲームで「手話応援デー」を開催！

11月10日(日)にハイアonzスタジアムいわきで行われるプロサッカーチームいわきFCのホームゲームで「手話応援デー」を開催します。

「手話応援デー」の開催は7月の福島ユナイテッドFCのホームゲームに続き2回目となります。

観戦を通じて手話に触れ、手話を使って一緒にいわきFCを応援し、会場を盛り上げましょう。

詳しくは
Webサイトを
ご覧ください



手話で応援する
福島ユナイテッドFCのサポーター

キビタンとベコ太郎が「東京2025デフリンピック応援隊」に就任！



応援隊に就任したベコ太郎

大会を応援する「東京2025デフリンピック応援隊」が結成され、福島県からはキビタンとベコ太郎が応援隊に就任しました。6月29日(土)に応援隊が東京都内でお披露目され、当日はベコ太郎が出席しました。会場でもベコ太郎のゆるーい風貌が話題となり、大人気！今後は、キビタンとベコ太郎が福島県のデフリンピックを盛り上げていきます。

手話を学ぼう！

小中学生を対象に、手話に関心を持ってもらうため「手話に親しむ出前講座」を実施しています。出前講座をきっかけに、手話でデフリンピックを応援し、一緒に盛り上げましょう。



「手話に親しむ出前講座」の様子

知事メッセージ — Message —

「東京2025
デフリンピック」の成功に
向けて

福島県知事 内堀 雅雄



来年11月に日本で初めてデフリンピックが開催され、本県のJヴィレッジにおいてもサッカー競技が行われます。県では、本大会の開催に向け、手話に触れて関心を持ってもらうイベントを実施するほか、デフサッカーを実際に体験できるプログラムを準備するなど、デフリンピックを身近に感じることが出来る取組を進めていきます。

皆さんには、この機会に是非、デフスポーツの魅力を知っていただき、手話で「東京2025デフリンピック」を応援し、みんなで大会を盛り上げていきましょう。